

朝日新聞 平成26年11月12日付

ジュニア防災検定 小中の授業に導入

座間 今年1校で試行

座間市は、小中学校生と家族の防災意識を高めるため、「ジュニア防災検定」を市立校の総合学習の授業に導入することを決めた。授業への導入は県内の公立校で初めて。

ジュニア防災検定は、一般財団法人防災検定協会が昨年12月に始めた小中学生対象の検定で、一般試験受験者はこれまで約5千人。自然災害の歴史や科学、社会との関わりを問う「筆記検定テスト」に加え、家庭での話し合いをまとめる「事前課題」、自由研究に取り組む「事後課題」の3要素を総合評価する。

座間市は、米国発祥の防災行動訓練「シェイクアウト」を県内で初めて行うなど防災力向上に力を注ぐ。昨年、検定の誕生を知り、全国の自治体で初めて希望者を募って市内で検定を開いた。市教育指導課は「単なるテストの合否ではなく総合的な学習機会があり、大人も参加するので幅広い成果がある」と確認した。

今回、検定を授業に採り入れる。今年、座間小学校6年生全員を対象とする。コースは「中級」（小6、中1程度）で、筆記試験は12月2日に実施する。同校は今年度から2年間かけ、総合学習で「災害に生き残る『判断力・行動力』と支え合う『思いやりの心』の育成」に取り組んでおり、検定はその一環となる。市は、成果をみて実施校を広げて行く方針。

防災検定協会は「座間市は防災に非常に熱心。検定をツールとし、各地域にあった防災力向上につなげていただきたい」という。

（吉村成夫）